NC-12(J)25_TO_BB16917-105 07.6.6 3:13 PM ページ1

FUJIFILM

instax mini 25
インスタントカメラ チェキ

チェキ=CHECK IT(要チェック、おもしろい・役に立ちそうだから覚えておく、記録しておくなどの意味)を短縮した造語

●セルフショット撮影
●「背景きれいフラッシュ」

Printed in China
BB16917-105 FPT-608112-Ni-05

使用説明書・保証書

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。
この説明書には、フジフイルム インスタントカメラ instax mini 25の使い方がまとめられています。
内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

FUJIFILM 富士フイルム株式会社

●本製品のお問合せ先
富士フイルム PI サポートセンター
ナビダイヤル 0570-001-080
⇒呼び出し音の前に NTT より通信料の目安をお知らせします。
受付時間：月曜日～金曜日 9：00～17：40（土日祝日、年末年始、夏期休暇を除く）
▶ PHS・IP 電話・NTT 以外の固定電話などナビダイヤルをご利用いただけない場合は、042-481-1697 にお願いします。

●本製品の修理受付窓口
富士フイルム修理サービスセンター
ナビダイヤル 0570-000-081 / FAX 0570-060-070
⇒呼び出し音の前に NTT より通信料の目安をお知らせします。
受付時間：月曜日～金曜日 9：00～17：40/ 土曜日 10：00～17：00（日祝日、年末年始、夏期休暇を除く）
▶ PHS・IP 電話・NTT 以外の固定電話などナビダイヤルをご利用いただけない場合は、0228-35-3586 にお願いします。
▶ 修理品を持参または送付される場合は、http://fujifilm.jp/support/ をご覧ください。

●富士フイルム製品のお問合せ先
富士フイルム株式会社
お客様コミュニケーションセンター 03-5786-1711
〒107-0052 東京都港区赤坂９丁目７番３号
富士フイルムホームページ：http://fujifilm.jp/

FUJIFILM **保証書**

製品名	**instax mini 25**
保証期間	**お買い上げ日から 本体1年間**
ご購入年月日	年 月 日
店名印	

お客様

お名前	様 TEL
ご住所	

このような時は…

ホームページの『Q&A』もご参照ください。 http://fujifilm.jp/support/

■撮影中このようなときは…

このようなときは	考えられる原因	こうしてください
シャッターが切れない。	① 電池が消耗している。 ② 電池の入れ方が間違っている。 ③ “⚡”が点滅している。 ④ 電源ONのまま何も操作をしないで5分以上放置していた。 ⑤ フィルムカウンターが“0”になっている。	① 電池を交換します。 ② 電池を正しく入れてください。 ③ フラッシュ充電中です。“⚡”が点滅しなくなるまでお待ちください。 ④ POWERボタンを押して、電源を入れてください。液晶表示部の“⚡”が点滅しなくなったら撮影できます。 ⑤ フィルムパックを取り出し、新しいフィルムパックを入れてください。
フィルムが入らない、またはスムーズに入らない。	① 撮影しようとしているフィルムパックがこのカメラに適合しない。 ② 入れ方が正しくない。	① フジフイルム インスタント カラーフィルム instax miniを使用します（他のフィルムは使用できません）。 ② フィルムパックの黄色の線とカメラの位置合わせマーク（黄）を合わせて入れます。
シャッターボタンを押しても電源がOFFになる。	● 電池が消耗している。	● 電池を交換します。
カウンター（数字または“E”）が点滅している。	カメラに異常が発生した。	① POWERボタンを押して、電源を入れ直してください。 ② ①を試しても改善しない場合は、富士フイルム修理サービスセンターへご相談ください。

■出来上がった写真がこのようなときは…

このようなときは	考えられる原因	こうしてください
出来上がった写真が白っぽい。	① 濃淡コントロールがⓁ［LIGHTEN］にセットされている。 ② 撮影時の温度が低い（5℃以下）。 ③ 背景が被写体より暗すぎる。 ④ AE受光窓、またはフラッシュ受光窓をふさいでいた。	① 濃淡コントロールを［NORMAL］（表示なし）にセットします。 ② 撮影前のカメラを暖かい場所に置いてから撮影してください。また、送り出された写真をポケットの中などで温めます。 ③ 濃淡コントロールをⒹ［DARKEN］にセットします。 ④ AE受光窓、フラッシュ受光窓をふさがないように、カメラの構え方に注意してください。
出来上がった写真が暗い。	① 濃淡コントロールがⒹ［DARKEN］にセットされている。 ② 撮影時の温度が高い（40℃以上）。 ③ 逆光で撮影した。 ④ フラッシュ発光部、AE受光窓、またはフラッシュ受光窓に指やストラップが掛かっていた。 ⑤ 背景が被写体より明るすぎる。 ⑥ フラッシュの光が届かない。 ⑦ 鏡やガラスなどによるフラッシュ反射光の影響を受けている。	① 濃淡コントロールを［NORMAL］（表示なし）にセットします。 ② カメラを涼しい場所に置いてから撮影してください。また、送り出された写真を熱いものの上や近くに置かないでください。 ③ 順光撮影を行うか、⚡強制発光モードでフラッシュ撮影を行ってください。 ④ フラッシュ発光部、AE受光窓、またはフラッシュ受光窓に指やストラップが掛からないように、カメラの構え方に注意してください。 ⑤ 濃淡コントロールをⓁ［LIGHTEN］にセットします。 ⑥ 被写体から0.5m～2.5mの範囲に近づいて撮影します。 ⑦ 鏡やガラスに対して斜め方向から撮影します。
画面がぼんやりしている。	① 撮影距離が近すぎる。 ② 撮影距離の設定が適切でない。 ③ 撮影レンズが汚れている。 ④ 手ブレのため。	①0.5m以上離れて撮影します。 ② 被写体の距離に合わせて撮影距離をセットします。 ③ 弊社修理サービスセンターにご相談ください。 ④ カメラをしっかり構えて、ゆっくりシャッターボタンを押します。⚡強制発光モードで室内や暗い屋外での撮影時にはスローシャッターになりますので、テーブルや壁などを利用してカメラまたは身体を固定することをおすすめします。固定できないときには、オートモードで撮影してください。
画面にむらがある。	① 取り出してすぐ写真に圧力が掛かった。 ② フィルムがスムーズに送り出されなかった。	① 画面内を押さえたり、曲げたりしないでください。 ② フィルム出口を指などでふさがないでください。
ファインダーでねらったものとズレて写った。	● 撮影距離が近すぎる。	● 0.5m以上離れて撮影します。

安全にご使用いただくために

● この製品および付属品は、写真撮影以外の目的に使用しないでください。
● 製品の安全性には十分配慮しておりますが、下記の内容をよくお読みの上、正しくご使用ください。
● この説明書はお読みになった後で、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠ 警 告	⚠ 注 意
この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 警 告

- 絶対に分解しないでください。感電の原因になります。
- 落下などにより内部が露出したときは、絶対に触れないでください。高圧回路があり感電する原因になります。
- カメラ（電池）が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、ただちに電池を取り出してください。発火ややけどの原因になります（電池を取り出す際、やけどには十分ご注意ください）。
- フラッシュを人の目に近づけて発光しないでください。一時的に視力に影響することがあります。特に乳幼児を撮影するときは気をつけてください。
- カメラを水中に落としたり、内部に水または金属や異物などが入ったときは、ただちに電池を取り出してください。発熱・発火の原因になります。
- 引火性の高いガスが充満している場所や、ガソリン、ベンジン、シンナーなどの近くでカメラを使用しないでください。爆発や発火・やけどの原因になります。
- カメラは乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息する原因になります。
- 電池の分解、加熱、火中への投入、充電、ショートは絶対にしないでください。破裂の原因になります。
- 指定以外の電池を使わないでください。発熱・発火の原因になります。
- 電池は乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤って飲み込む原因になります。万一飲み込んだ場合には、ただちに医師の診察を受けてください。
- 付属の接写レンズを通して太陽を見ないでください。失明の原因になります。

⚠ 注 意

- カメラをぬらしたり、ぬれた手で触ったりしないでください。感電の原因となることがあります。
- 自転車や自動車・列車などを運転している人に向けて、フラッシュ発光撮影をしないでください。交通事故などの原因となることがあります。
- 新しい電池と古い電池、違う種類の電池を混ぜて使用しないでください。また、電池の⊕⊖を誤って装てんしないようにご注意ください。電池の破裂、液もれにより、発火、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- カメラの内側の可動部に触れないでください。けがの原因となることがあります。
- 付属の接写レンズを太陽光の当たる場所に放置しないでください。太陽光が集光した場合には高温になり、発火ややけどの原因になる恐れがあります。

主な仕様

使用フィルム	フジフイルム インスタントカラーフィルム instax mini
画面サイズ	62mm×46mm
レンズ	沈胴式 2群2枚構成 f=60mm 1：12.7
ファインダー	実像式ファインダー 0.37倍 ターゲットマーク付き
撮影範囲	電動2点切り替え式（通常モード0.5m～2.5m／遠景モード2.5m～∞）
シャッター	プログラム式電子シャッター 1/3秒～1/400秒 2シャッターボタン（縦位置撮影／横位置撮影）
露光調節	自動調節 連動範囲：LV5.0※～15.5（ISO 800）※強制発光モード時 露光補正（濃淡コントロール）：±2/3EV
フィルム送り出し	電動式
フラッシュ	低輝度自動発光オートフラッシュ（自動調光） オートモード 強制発光モード（背景きれいフラッシュ） 充電時間：0.2秒～5秒（新品電池使用時） フラッシュ撮影距離：0.5m～2.5m
セルフショット	セルフショットミラー付き
液晶表示	フィルムカウンター（残数表示式） 遠景モード 濃淡コントロール 強制発光モード
電源	リチウム電池 CR2 2本 撮影可能パック数：約30パック（当社試験条件による）
その他	フィルムパック確認窓、簡易接写レンズ（撮影距離：35cm～50cm）
大きさ・質量（重さ）	112.0mm×121.0mm×50.5mm（突起部除く） 275g（電池、ストラップ、フィルム別）

＊ 仕様・性能は、予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

取扱上のお願い

■カメラの取り扱い

1. カメラは精密機械ですから、水にぬらしたり、落としたりしてショックを与えないでください。また、砂の掛かりやすいところには置かないでください。
2. 市販のストラップをご使用になる場合は、ストラップの強度をご確認の上、ご使用ください。携帯電話、PHS用ストラップは軽量機器用ですので、ご使用の際は特にご注意ください。
3. 長期間お使いにならないときは、電池を取り出して、湿気、熱、ほこりの影響の少ないところに保管してください。
4. ファインダーなどが汚れたら、ブロアーブラシでほこりを払い、柔らかい布で軽くふきとってください。
5. 汚れをふきとるのにシンナー、アルコールなどの溶剤は使用しないでください。
6. フィルム室に汚れやほこりがあると、フィルムを傷つけることがあります。特にカメラ内部の清掃は常に心掛けてください。
7. 閉め切った自動車の中や、高温の場所、湿気のある場所、海岸などに長時間放置しないでください。
8. ナフタリンなど防虫剤のガスは、カメラにもフィルムにも有害ですから、たんすなどへの収納は避けてください。
9. このカメラはマイクロコンピューターによって制御されているため、ごくまれにカメラが誤作動する場合があります。このようなときは、電池をいったん取り出し、1分以上おいてから再度入れ直してください。
10. このカメラの使用温度範囲は+5℃～+40℃です。

■フィルム、写真の取り扱い

1. フィルムは、涼しい乾燥した場所に保管してください。特に閉め切った自動車の中などの極端に高温の場所に長時間放置しないでください。
2. カメラに入れたフィルムは、できるだけ早く撮影してください。
3. フィルムを極端に温度の低い場所や高い場所に置いてしまった場合は、通常の温度になじんでから撮影してください。
4. フィルムは有効期限内にお使いください。
5. 空港の預け入れ荷物検査などでの強いX線照射を避けてください。未使用のフィルムにカブリなどの影響が出る場合があります。手荷物としての機内持ち込みをおすすめします（詳しくは各空港でご確認ください）。
6. 写真は強い光を避け、涼しく乾燥した場所に保存してください。

＊ 外から入った異物や、フィルムからもれた液によってローラーが汚れた場合は、富士フイルム修理サービスセンターにご相談ください。

製品保証規定

1. 保証の内容
ご購入後1年以内に万一この製品が故障したときは、この保証書を添えてご購入店または弊社修理サービスセンターにお届けください。無料で修理いたします。
なお、お届けいただく際の運賃などの諸費用は、お客様にてご負担願います。また、お買い上げ店と弊社間の運賃諸掛かりにつきましても一部ご負担いただく場合があります。
2. 次の場合は保証期間内でも上記1.の保証規定は適用されません（修理可能の場合は有料で修理をお引き受けします）。
   イ. 修理ご依頼の際、保証書の提示または添付のないもの。
   ロ. 保証書にご購入年月日、購入店名が記入されていない場合、または記載事項を改ざんされた場合。
   ハ. 富士フイルム修理サービスセンター以外で分解、修理されたもの。
   ニ. 火災、地震、風水害などの天災による損傷、故障。
   ホ. お取扱上の不注意（使用説明書以外の誤操作、落下、衝撃、水掛かり、砂・泥の付着、カメラ内部への水・砂・泥の入り込みなど）、保管上の不備（高温多湿やナフタリン、しょうのうの入った場所での保管）、お手入れの不備（かび発生など）により生じた故障。
   ヘ. 本体に付帯している付属品類（ストラップなど）および消耗品（電池類など）。
   ト. 前記以外で弊社の責に帰すことのできない原因により生じた故障。
   チ. 各部点検、精密検査、分解掃除などを特別に依頼されたもの。
3. 本製品に対する保証は前記の範囲に限られます。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、撮影によって得るであろう利益の損失、精神的な損害など）の補償には応じかねます。
4. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。

● 本保証書は、前記の保証規定により無料修理をお約束するもので、これにより弊社およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
● 本保証書の表示についてご不明な点は、弊社問い合わせ先へご相談ください。
● 本保証書は紛失されても再発行いたしません。

アフターサービスについて

お手持ちの製品が故障した場合には、次の要領で修理させていただきます。ご購入店または富士フイルム修理サービスセンターに直接お申し出ください。それ以外の責は、ご容赦いただきます。なお、保証、使い方などのご不明な点につきましても、上記に記載の富士フイルム修理サービスセンターをご利用ください。

● 無料修理
故障した製品についてはご購入年月日、購入店名の記入された、ご購入日より1年以内の保証書が添付されている場合には、保証書に記載されている内容の範囲内で、無料修理させていただきます。
＊ 詳しくは、製品保証規定をご覧ください。

● 有料修理
保証期間を過ぎた修理は、原則として有料となります。保証期間内であっても、製品保証規定の「2.」に該当する場合はすべて有料となります。また運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。

● 修理不能
浸（冠）水、強度の衝撃、その他で損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるもの、および部品の手当が困難なものなどは修理できない場合もありますので、富士フイルム修理サービスセンターにお問い合わせください。

● 修理部品の保有期間
この製品の補修用部品は、製造打ち切り後5年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。なお、部品保有期間終了後でも修理できる場合もありますので、詳しくはご購入店か富士フイルム修理サービスセンターにお問い合わせください。

● 修理ご依頼に際してのご注意
1. 保証規定による修理をお申し出になる場合には、必ず保証書を添えてください。
2. ご購入店や富士フイルム修理サービスセンターで、ご指定の修理箇所、故障内容を詳しくご説明ください。故障の状態によっては、事故となったフィルムなどを添えてくださると修理作業の参考になります。
3. 修理箇所のご指定がないときは、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
4. 修理料金が高く見込まれる修理のときは「○○○○円以上は連絡してほしい」と金額をご指定ください。ご指定のないときは6,000円以内の料金で修理完了する場合は修理をすすめさせていただきます。
5. 修理に関係のない付属品類は、紛失などの事故を避けるため、修理品から取り外してお手もとに保管してください。
6. 修理のために製品を郵送される場合は、ご購入時の外箱などに入れてしっかり包装し、必ず書留小包でお送りください。
7. 修理期間は故障内容により多少違いますが、厳重な調整検査を行いますので、普通修理品の場合は富士フイルム修理サービスセンターで、お預かりしてから通常7～10日位をご予定ください。

● 海外旅行中の故障
本製品の保証書は国内に限り有効です。万一、海外旅行中に故障や不具合が生じた場合は、持ち帰った後、国内の富士フイルム修理サービスセンターにお問い合わせください。

各部の名称

① POWER(電源)ボタン
② ⚡/▲撮影モードボタン
(なし)オートモード
・暗いところではフラッシュが発光し、明るいところでは発光しません。
⚡ 強制発光モード(背景きれいフラッシュ)
・周囲が明るくても暗くてもフラッシュが発光します。
・暗いところではスローシャッターのフラッシュ撮影(スローシンクロ)になります。
☞ 背景もきれいに写ります。
▲ 遠景モード/遠距離(2.5m〜∞)撮影の場合に使用します。
③ Ⓛ Ⓓ濃淡コントロール切り替えボタン
☞ 写真全体の濃淡の度合いを調節できます。

カメラの構え方

両手でしっかりカメラを持ちましょう。

丸枠内(フラッシュ発光部、フラッシュ受光部、AE受光窓)に指やストラップを掛けない
シャッターボタンは人差し指で押す
ストラップに手首を通す
フィルム出口をふさがない
撮影レンズに指やストラップを掛けない
＊ 特に横位置撮影時にはご注意ください。

縦位置撮影 / 横位置撮影

撮影の準備

＊ 電池を入れる前にフィルムパックを入れると、フィルムカウンターが誤作動することがあります。
＊ フィルムパックをセットした後は、絶対に裏ぶたを開けないでください。フィルムが感光する恐れがあります。

1 ストラップを取り付けます

＊ 落下防止のため、持ち運んだり撮影するときはストラップに手首を通してください。

ここをスライドさせて、手首から抜けにくくします。

2 電池を入れます

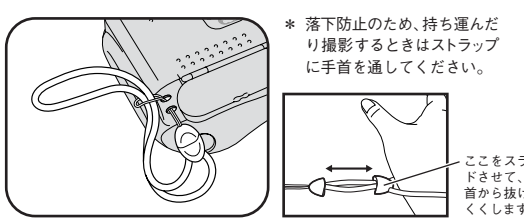
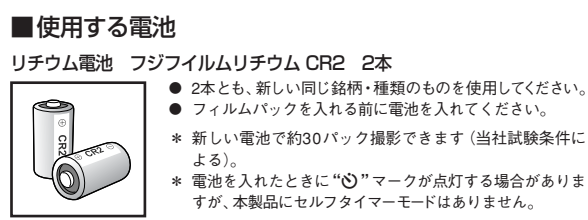
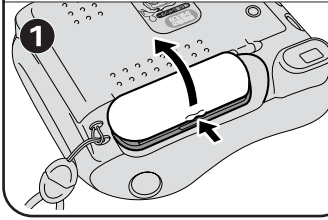
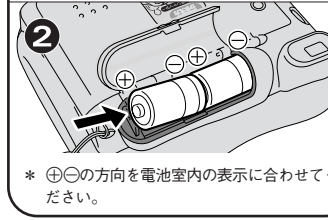
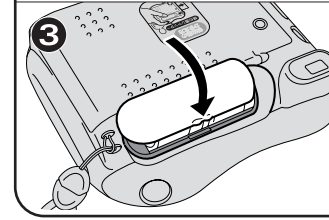
■使用する電池

リチウム電池　フジフイルムリチウム CR2　2本

● 2本とも、新しい同じ銘柄・種類のものを使用してください。
● フィルムパックを入れる前に電池を入れてください。
＊ 新しい電池で約30パック撮影できます(当社試験条件による)。
＊ 電池を入れたときに"Ⓢ"マークが点灯する場合がありますが、本製品にセルフタイマーモードはありません。

① 電池ぶたを開けます

② 電池を入れます

＊ ⊕⊖の方向を電池室内の表示に合わせてください。

③ 電池ぶたを閉めます

電池容量の確認方法と交換時期

■ 電池容量が不足気味：新しい電池を準備してください。
● フラッシュの充電に約8秒以上かかるとき

■ 電池容量なし：新しい電池に交換してください。
● 電源を入れてもレンズ部が動かないとき
● シャッターボタンを押してもシャッターが切れず、電源がOFFになるとき

＊ 必ず2本とも新しい電池に交換してください。

3 フィルムパックを入れます

電池が入っていることを確認してから、直射日光を避けて行ってください。

■使用するフィルム

フジフイルム　インスタントカラーフィルム
instax mini (チェキ用フィルム)

● 他のフィルムは使用できません。
＊ フィルムパックには1枚の黒いフィルムカバーと10枚のフィルムが収納されています。
＊ フィルムパックはカメラに入れる直前に内装袋から取り出してください。
＊ 撮影前のフィルムパックは、フィルムカバー、背面2カ所の長方形の穴は絶対に押さないでください。

裏ぶたを開けます ① ②

フィルムパックを入れます

③ フィルムパックの左右を持ちます。
④ フィルムパックの黄色の線をカメラ内部の黄色の線に合わせます。

＊ まっすぐ落とし込むように入れてください。

⑤ 裏ぶたを閉めます

＊ ひといきで閉めてください。途中で止めたり、完全に閉まる前に開け閉めすると、フィルムが感光する恐れがあります。

⑥ 電源を入れます

＊ 電源を入れる際、レンズカバーを押さえないでください。レンズカバーが開かなくなる場合があります。

フィルムカバーを取り除きます

⑦ シャッターボタンを押します。
⑧ フィルムカバーを取り除きます。
☞ フィルムカウンターに"10"が表示されます。

撮影しよう

1 電源を入れます

POWERボタンを押します

＊ 電源を入れたまま約5分間放置すると、電源は自動的に切れます。

● 電源を入れたときには、次の設定になります。
① 撮影距離：0.5m〜2.5m(表示なし)
② フラッシュ：オートモード(表示なし)
③ 濃淡コントロール：NORMAL(表示なし)
＊ 設定は各ボタンを押すと切り替わります。
＊ シャッターを切っても設定は変わりません。電源が切れると、上記の初期設定に戻ります。
＊ 電源を入れる際、レンズカバーを押さえないでください。レンズカバーが開かなくなる場合があります。

2 構図を決めます

縦位置　横位置

＊ 最短撮影距離は0.5mです。
＊ フラッシュ光が届く範囲は、0.5m〜2.5mです。
＊ 指やストラップなどが撮影レンズやフラッシュ発光部、フラッシュ受光窓、AE受光窓に掛からないようにしてください。

● ファインダー内の中央にある○を目安に構図を決めます。

3 シャッターを切ります

● フラッシュ充電中(液晶表示部の"⚡"点滅中)はシャッターが切れません。暗いところなどでのフラッシュ撮影時には、フラッシュの充電が完了してからシャッターを切ってください。

このカメラには縦位置と横位置の2つのシャッターボタンがあります。構図に合わせてシャッターボタンを選択してください。

4 フィルムが送り出されます

＊ フィルム出口を指などでふさがないでください。

5 フィルムを取り出します

＊ 撮影したフィルムは、撮影の都度取り出してください。
＊ 必ずモーターの音が止まってからフィルムの先端を持って取り出してください。

フィルムパックを取り出す

最後の1枚を撮り終わると、"0"が表示され、シャッターが切れなくなります。

フィルムパックを取り出します

フィルムや出来上がった写真を取り扱うときは…

フィルムが残っている状態では、絶対に裏ぶたを開けないでください。

＊ フィルムが感光する恐れがあります。
＊ フィルムカウンターがリセットされ、正しい撮影可能枚数が表示されません。

写真の仕上がり

5℃から40℃の温度でご使用いただくと、よい写真が得られます。
＊ 気温が低いときには、すぐに上着のゆったりしたポケットの中などで約30秒間温めてください。
＊ 極端に熱いところに置かないでください(熱い砂やコンクリートの上、ストーブの近くなど)。

振らない

曲げない

折らない

画面内を手で押さえない

＊ 撮影直後の写真は、画像が安定するまで直射日光を避けてください。また、写真を振る、曲げる、折る、押さえる、こするなどしないでください。

美しい写真は、"初めの30秒間の温度"が大切です。

☒ 注意

● このフィルムの内部には、黒色の腐食性(高アルカリ性)の液が含まれています。撮影後、約10分間でアルカリ性は弱まりますが、撮影直後の写真や未使用のフィルムを扱うときは、次のことを守ってください。

口に入れない(特に乳幼児やペットにはご注意ください)　切らない　引きはがさない　穴を開けない

万一、この液が皮膚や衣服などについたときは、速やかに水で充分洗ってください。また、目や口に入った場合はただちに多量の水で充分洗った後、医師の診察を受けてください。

セルフショット撮影

＊ セルフショットミラーで写る範囲を確認できます。
＊ 構図に合わせてシャッターボタンを選択できます。

■カメラを手持ちしながら撮影者自身も一緒に写りたいとき、写る範囲を確認しながら撮影できます。

カメラの撮影モードをオートモードに設定します

① 表示なし

強制発光モードでセルフショット撮影を行うと、手ブレを起こす場合があります。

セルフショットミラーを見ながら構図を決めます

＊ 左手でしっかりとカメラを持ちます。＊ 50cm以上離してください。

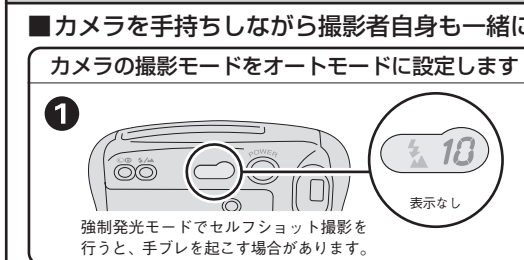
② 撮影者一人を写す場合

＊ 撮影者自身がセルフショットミラーに映っていることを確認します。

撮影者を含め、複数で写す場合

＊ 写真に写る人全員がセルフショットミラーに映っていることを確認します。

シャッターを切ります

③ ＊ セルフショットミラーが汚れたら、柔らかい布で軽くふきとってください。

50cm以内で撮影する場合は…

● 撮影レンズと被写体との距離が50cm以内である場合は、付属の簡易接写レンズをご使用ください。簡易接写レンズを取り付けると、撮影距離が35cm〜50cmになり、カメラを被写体により近づけて撮影していただけます。
＊ 詳しくは、「簡易接写レンズの使い方」をご覧ください。

各ボタンの使い方

1 ⚡/▲ 撮影モード

⚡/▲ボタンを押すと、撮影モードが切り替わります。
＊ シャッターを切っても設定は変わりません。
＊ 電源を切ると初期設定に戻ります。

(表示なし)オートモード → ⚡ 強制発光モード(背景きれいフラッシュ) → ▲ 遠景モード

(オートモード) 暗いところではフラッシュが発光し、明るいところでは発光しません。

通常撮影するときに使用します。

＊ 電源を入れたときには、このモードに設定されます。
＊ 暗いところでもスローシャッターにならず、手ブレ防止できます(シャッタースピード：1/30秒)。

(強制発光モード) 周囲が明るくても暗くてもフラッシュが発光します。

暗いところで、背景をより明るく写したいときに使用します。

このモードでは、周囲の明るさに応じて自動的にシャッタースピードが切り替わります。暗いところではスローシャッターのフラッシュ撮影(スローシンクロ)になり、背景をより明るく写します。
＊ 背景が暗すぎると効果が出ない場合があります。
＊ 暗いところではスローシャッターになりますので、動く被写体の撮影ではブレが生じる場合があります。手ブレ防止のため、テーブルや壁などを利用してカメラをしっかりと固定することをおすすめします。背景の色は照明の影響を受けやすくなります(蛍光灯下では青緑っぽく、タングステン灯下では赤っぽく写る場合があります)。

逆光で、被写体をきれいに写したいときに使用します。

(遠景モード) 暗いところではフラッシュが発光し、明るいところでは発光しません。

屋外などで、遠方(2.5m〜∞)を撮影するときに使用します。

2 Ⓛ Ⓓ 濃淡コントロール

Ⓛ Ⓓボタンを押すと、写真全体の濃淡の度合いを調節できます。
＊ シャッターを切っても設定は変わりません。
＊ 電源を切ると初期設定に戻ります。
＊ 写真全体の濃淡の度合いは、周囲の明るさや気温などに影響されます。
＊ 出来上がった写真の濃淡の度合いにより、濃淡コントロールを調節してください。

DARKEN(暗くする) → NORMAL(通常) → LIGHTEN(明るくする)

写真全体が暗めに撮影されます。
● 被写体が白っぽく写ったときに設定してください。
(例) NORMAL Ⓓ DARKEN

通常はこの設定で撮影します。

写真全体が明るめに撮影されます。
● 被写体が暗い感じに写ったときに設定してください。
(例) NORMAL Ⓛ LIGHTEN

フラッシュを上手に使うには…

■ 鏡やガラスなど、光を反射させるものがあるとき

少し斜めから写すなど、反射光がカメラに入らないように工夫しましょう。

■ 二人以上の人物を撮影するとき

カメラからそれぞれの人物が同じ距離に並んで、均等にフラッシュ光が当たるようにしましょう。

簡易接写レンズの使い方

被写体に近づいて大きく写すことができます

取り付け方

レンズのツメ

レンズのツメが左右にくるようにして、まっすぐはめ込みます。
＊ 正しくはまると「カチッ」と音がします。

取り外し方

親指で横に押しながら引き起こして外します。セルフショットミラーを汚さないように注意しながら外してください。
＊ 撮影が終わったら、レンズを取り外してください。

取り付け時・取り外し時・使用中にはレンズを回転させないでください。レンズのツメが壊れる恐れがあります。

ケースの取り扱い方

撮影方法

① カメラの撮影距離を0.5m〜2.5m(▲ 表示なし)に設定します。

② レンズを被写体に向けて撮影します。

● ファインダーを使わずにレンズを被写体に向けてください。
＊ ファインダーを使うと、ファインダーから見える範囲と写る範囲にズレが生じます。
● 被写体との距離をおよそ35cm〜50cmにして撮影すると、よいピントが得られます。

35cm〜50cm

接写レンズなし 50cm → 接写レンズ付き 35cm